

平成28年度授業改善推進プラン 音楽科

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

実技においては、歌唱への関心意欲は高いが技能の点では、基礎的な発声方法が未熟であることは課題となる。特に女子の音量が足りないのが、基礎的な発声方法において、響く声、ブレスを繋げられるように見直していく必要がある。さらに、強弱と速度だけに終わらず、曲の構成やテクスチャを意識し、全体の響きを意識した歌唱ができるように学ばせていく。鑑賞においても、楽器の音については27年度に丁寧に学習しているため、さらに曲の構成や楽器の音色に着目して、曲の特徴をつかむことができるように学ばせていく。

音楽科の課題と具体的な授業の改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
意欲心 態度	○全学年とも、おおむね落ち着いて意欲的に取り組んでいる。特に合唱では全員が協力してよい演奏になるので、より高度な音楽表現をしようとするには、継続して曲の構成をしっかりと理解し、表現の技能を磨くことの大切さに気付かせることが大切である。	○正しい発声法を身に付け、高度な表現に対応できる力が付くよう指導する。 ○仲間のよいところを聴く力を身に付けさせ、他者の意見を尊重し、協力しあえるよう指導していく。
表現の 創意工夫	○曲の強弱や詩の内容の意味をよく考えながら表現しようとしている。しかし、音楽的な要素への理解が乏しい生徒が多い。	○理論を中心とした学習で、共通事項の理解と定着を図る。 ○共通事項は常に掲示をし、ワークボードなど使用し、アクティブラーニングをしていくことから、興味をもたせ理解させていく。 ○詩の内容も含めて、曲の構成を考え、表現の工夫をする。
表現の 技能	○どちらかというと音量が少ない生徒が多い。詩の意味を考えて表現しようと努力しているが、基礎的な発声法の技能が足りないため表現に乏しくなる。○曲の特徴をつかめずに歌っているため、声部の役割などを考えていない生徒が多い。	○正しい発声方法で歌い、全体の響きを感じ取って表現するよう指導する。基礎的な呼吸法等の指導に力を入れる。○曲の構成やテクスチャから、声部の役割を理解し、音色も意識して歌えるように技能の指導を行う。
鑑賞の 能力	○普段から音楽に接している生徒とそうでない生徒の差が大きいため、基礎的な音楽の諸要素を理解し、音色の違いや曲全体の構成をつかみ取れるよう、指導していくことが課題である。	○鑑賞時に、テクスチャがどのようになっているか、速度や音色など、細かく分析できるようワークシートで学習させる。 ○学年毎に難易度があがるよう、発達段階に合わせて計画的に指導する。